

1月27日：狼狽売りが再燃し、VN指数は3日続落

過剰な量の取引注文から株式市場は後場に凍結し、水曜日のVN指数は3.43%（38.95ポイント）続落し、終値1,097.17ポイントだった。

VN指数を扱うホーチミン市場（HoSE）では、再び売り一色となり、値下がり数が413、値上がり数は51となった。

全体の売買高はわずかに前日を上回り、売買代金は16兆7,800億ドン（7億2,822万米ドル）となったが、仮に取引最終時間にホーチミン市場で売買停止が頻繁に発生しない場合、全体の売買高はさらに増加する可能性がある。

株式市場に利益確定売りが発生する時、直近2週間に2回あったような大量の売りを引き起こし、過去数か月間のVN指数の回復に乗っかろうとする経験不足の投資家と信用取引をするトレーダー達は過剰に反応するだろうと、証券会社は注意を払う。

だが、外国人投資家は底値買いをするチャンスを掴んでいると思われる。外国人投資家は最終月の取引日の多くで売り越した後、ホーチミン市場で150億ドン分の株式を買い漁った。

業種別では不動産の4銘柄に買い越しが集中した。名前を挙げると、ノブランド不動産投資グループ（NVL）+0.2%、キンバックシティグループ（KBC）-6.9%、ビンホームズ（VHM）-4.18%、ナム・ロン・インベストメント（NLG）+0.3%であった。

大型株中心のVN30指数は3.69%安と、組み入れ銘柄のうち、27銘柄が下落し、3銘柄のみ上昇した。

SSI証券（SSI）-6.9%、ビンコムリテール（VRE）-6.9%、タインタインコン・ビエンホア製糖（SBT）-6.8%と全てストップ安した。

業種別で民間の銀行セクターは再度最も売られ、エクシムバンク（EIB）-5.9%、VPバンク（VPB）-5.9%、HDバンク（HDB）-4.9%、サコムバンク（STB）-4.3%、テクコムバンク（TCB）-4.3%だった。

国営の銀行セクターは軍隊商業銀行（MBB）が6.3%安し、一方で預かり資産トップスリーではベトインバンク（CTG）-5.5%、ベトコムバンク（VCB）-3.5%、ベトナム投資開発銀行（BID）-2.9%とすべて下げた。

他の下げた大型銘柄では、ホアンファイ投資金融サービス（TCH）-5.3%、ペトロベトナムガス（GAS）-5.2%、ホアファットグループ（HPG）-4.7%が含まれた。

その反面、VN30 指数の重しとならず、5.9%上昇した FLC ファロス建設（ROS）が昨日に続いて値上がり率トップ。それに続いてモバイル・ワールド・インベストメント（MWG）が1.1%上昇し、ノブランド不動産投資グループ（NVL）は+0.2%で引けた。

投資家は競い合って株式を売り払い、ハノイ市場（HNX）が-3.09%、UPCoM 市場（UPCoM）が-2.56%と、中小型株が中心の両市場の指数は値下がりした。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Incorporated (JSI) から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。